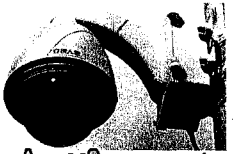


# 品川宿

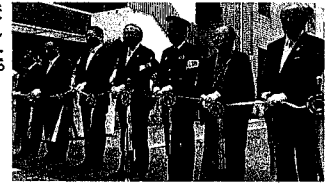
平成25年6月20日発行  
品川第一地域センター  
(03-3450-2000)

～字ろよ わたしの好きな 街だから～

## “街頭防犯カメラ”設置記念パレード



3月23日(土)、北品川本通り商店会および北品川商店街協同組合、京急新馬場商店街振興組合の3商店街の主催による「防犯カメラ設置記念パレード」が開催されました。



今回は、北品川一丁目町目町会・八ツ山町会・北品川二丁目町会・北品川三丁目親和会・刈崎町会・東品川一・三町会・櫻心会町会の7町会の地域内に合計23台の防犯カメラが設置されたことを記念して行われました。

防犯カメラは、ひったくりや泥棒、強盗などの犯罪抑止や、

犯人検挙率向上を目指し設置・運用されています。

品川区区内でも、品川第一地区は犯罪の少ない地区といわれていますが、防犯カメラが設置されたことで、さらに安心して暮らせる街となることが期待されます。

当日のパレードでは、「阿波おどり」が高円寺の吹鼓連などの団体により披露され、八ツ山から街道松の広場まで約2キロにわたり、午後2時から2時間程かけて、旧東海道を練り歩きました(写真左)。

踊り手の「ヤットサーヤットサー」という掛け声は、観衆を湧かし、元気をふりまわっていました。



## 親子で地引網体験

5月19日(日)、神奈川県三浦海岸にて、品川第一地区委員会主催による「親子で地引網体験」が実施されました。

参加者は、中高生のジュニアリーダー6名を含めて、小学生を中心に83名でした。

当日は天気にも恵まれ、子どもたちはキラキラ光る海を見て大きな歓声をあげ、澄み切った空の下で砂浜を楽しそうにノビノビと走り回っていました。



地引網体験では、漁師さんが沖に仕掛けた網を、子どもも大人も汗と海水でビヨビヨになりながら、網に繋がった2本のつなを協力して引っ張りまし

た。引き上げた網には、数え切れないほどのたくさんの小魚やトビウオ、そして大きなスズキがかり、漁師さんの魚の説明を子どもたちは熱心に目を輝かせて聞いていました。

その後は、捕まえた魚を炭で焼いて、おいしく食べました。おかわりする子どももたくさんいて、

生きた魚を自分で捕まえて食べるという、良い「食育の場」となりました。



また、子どもたちはジュニアリーダーと一緒にじゃんけんゲームなどのレクリエーションを楽しんだり、波打ち際に遊んだりヘトヘトになるまで楽しんでいました。

## 北二寄席

4月13日(土)、元気フェスタしながわ期間中、北二会館にて「北二寄席」が開催されました。

北二寄席は、今回で26回目となり、10年以上も前から続いている伝統ある寄席です。

今年は「柳家三之助 師匠(写真右)」「入船亭小辰さん」の2名が出演され、三之助師匠は、北二寄席に初出演の時は「二つ目」でしたが、現在は「真打」に昇進され、「北二寄席とともに成長してきた。」と冗談まじりにお話されていました。



当日は満席の中、品川宿が舞台となる『居残り佐平次』などの演目が披露されました。落語という伝統芸能を身近で見られるとあって、観客の中には、小さな子どもや若い方も多く、笑い声の絶えない素敵で貴重な時間となりました。

## 品川第一地域センター

あんどう ひろし  
新所長 安藤 裕

品川第一地域センターでは、4月から中嶋所長に代わり、新たに安藤所長が就任しました。以前、副所長として勤めていたので、顔見知りの方も多いかもかもしれません。



「このたび、品川第一地域センター所長に就任いたしました安藤と申します。品川第一地区については、品川宿という歴史ある地域と再開発で新たな歴史を作り出そうとしている地域が融合する、区内でも重要な地区と認識しており、大変大きな責任を感じております。今後は、この地域のために初心に戻って誠心誠意努力を重ねてまいります。不慣れで何かとご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、地域の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」

# スタンドパイプ合同訓練

5月26日(日)、台場小学校にて「品川第一地区スタンドパイプ合同訓練」が実施されました。

参加者は、消火ポンプが配備されている11の町会自治会を中心に、総勢151名でした。



訓練では、模擬消火栓と路上消火栓を使い、消火栓の内部構造やスタンドパイプの使用方法を学びました。また、マンホールの重いフタを開閉する際の危険性を、改めて体験できました。



スタンドパイプからの放水訓練では、参加者は「放水はじめ!」「放水やめ!」と大きな声を上げ、真剣に訓練に取り組んでいました。

さらに、AED操作訓練やロープワーク訓練も同時に行い、より実践的な訓練となりました。

今後、火災が発生した時に迅速な初期消火ができるように、スタンドパイプのみならず、C級・D級ポンプの操作訓練も積み重ねていくことが大切です。



## 第13回 江戸里神楽を観る会

主催 間宮社中(八世 間宮朝臣)  
共催 品川区教育委員会

3月17日(日)、六行会ホールにて「江戸里神楽を観る会」が開催されました。

「江戸の里神楽」は、間宮社中によって二百余年にわたって傳承されているお神楽で、現在は39座(演目)が傳承されています。また、平成7年に国指定重要無形文化財に指定されました。

当日は「熱田神剣(あつたしんけん)」と「綱引醜女(つなひぎしこめ)」の2座の演目が上演されました。また、特別講演として東京都指定無形民俗文化財の品川神社太々神楽「八剣の舞」も演じられました。

「熱田神剣」は、宝剣「草薙剣(くさなぎのつるぎ)」の守護を申し付けられた2人の「宮守」と、その宝剣を何とか盗もうとする沙門道行(しゃもんどうぎょう)とのやりとりが見所となっています。観に来ていた大人も子どもも、そのコミカルな演技に声を出して笑って楽しんでいました。



「綱引醜女」は、間宮社中では約50年ぶりの上演となりました。見所としては、女神「伊邪那美命(いざなみのみこと)」が舞いながら面のかぶり変えを行うところ、醜女と九那戸神(くなののかみ)の争いの場面です。面のかぶり変えでは、一瞬にしてゾクとする生成(なまなり)の面が変わり、また、舞いも荒々しいものへと変化します。観客は、その早業に目を奪われていました。



〈女神〉



〈生成〉



今回のような催し物は、普段は観ることの出来ない「江戸の里神楽」を觀賞する貴重な場です。上演終了後には、観客の皆様はとても満足した表情でお帰りになりました。

# 品川区津波防災フォーラム



3月2日(土)、品川区役所講堂で「津波防災フォーラム」が開催されました。

今回のフォーラムでは、初めに河川下水道課から、品川区における津波への対応策が説明されました。

### 〈対応策〉

- ① 区内標高図を品川区HPにて公開
- ② 標高検索システム運用開始(品川区HPから検索可能)
- ③ 津波ワークショップ開催(大井第一地区・品川第一地区・品川第二地区にて実施し、参加者からの声をマニュアルへ反映)
- ④ 津波自主避難マップ作成マニュアル策定
  - \* 津波自主避難マップとは、津波が襲ってきた時に、すぐ高い所へ避難できるように、各個人で決めた避難ルートを書き入れたマップのことです。
  - \* マニュアルは、品川区HP・河川下水道課・5地域センター(品川1・品川2・大井1・大崎1・大崎2)で入手できます。

その後、京都大学大学院助教・奥村 与志弘(おくむら よしひろ)氏による『東日本大震災から2年 今こそ私たちがすべきこと ～一人ひとりの逃げる力が地域みんなを守る～』をテーマとした講演が行われました。その講演の中でとても印象的な次の言葉がありました。



### 「防災対策を地域振興につなげることはできないか」

これは、防災対策としての取り組みを通じて、町を元気にし住民の日常生活を豊かにすることへつなげていこう、という考えです。

例えば、ある地域の名産である「うどん」を、非常食として備蓄するため、たくさん生産するとともに、それをブランド化して全国に売り出す。結果として、地域の振興事業となります。

防災対策事業というと、「防災」という観点に固執してしまいがちです。それはとても大切なことですが、もう少し視野を広げ、柔軟な思考で、将来的に「地域の活性化」につながっていく防災対策を考えることの重要性を教えてくださいました。

その他、展示ブースでは、品川区内の標高図を立体化した巨大模型が展示されました。参加者は自分の住む地域周辺の標高を、実際に目で見て確認することができました(写真右)。

